

【問い合わせ先】

島根県病害虫防除所 [担当：奈良井・山本]

TEL：0853-22-6772

FAX：0853-24-3342

平成28年度 病害虫発生予察情報 技術資料第5号

平成28年9月5日

島根県病害虫防除所

## ダイズ及びアブラナ科野菜等におけるハスモンヨトウの発生状況について

現在、ダイズ及びキャベツにおけるハスモンヨトウの発生は、発生ほ場率、寄生株率とも平年に比べて高く推移しています。現地では発生状況の把握に努めるとともに、薬剤散布など適切な防除対策をお願いします。

### 記

#### 1. 現在の発生状況

- 1) 8月下旬のダイズでの巡回調査における本種幼虫による1a当たりの白変か所数は1.2か所(平年0.3か所)と平年より多く、発生圃場率は53.3%(平年20.9%)と平年よりやや多い。
- 2) 8月下旬のキャベツでの巡回調査における発生圃場率は16.7%(平年6.7%)、寄生株率は1.7%(平年0.9%)で平年よりやや高い。
- 3) フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数(7月上旬～8月末)は、県東部で平年比138.4%(やや多い)、県西部でも132.4%(やや多い)であった。また、8月6半旬から9月1半旬に大量の誘殺があった(表3参照)。
- 4) 1ヶ月予報(9月1日広島地方気象台発表)によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%であり、ハスモンヨトウの発生に適した気象条件が予想される。

#### 2. 防除対策および防除上の注意事項

- 1) ハスモンヨトウ幼虫の発生は9月2半旬以降に多くなると考えられる。



ダイズの白変葉

幼虫

卵塊

#### 3. 耕種法による防除

ダイズ：白変葉の発生に注意し、発生した場合は若齢幼虫を葉ごと切り取る。

#### 4. 薬剤防除（農薬登録内容は平成28年9月現在）

- 1) 薬剤の選定に当たってはミツバチ等訪花昆虫への影響を十分に考慮する。
- 2) 薬剤の使用に当たっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用する。また、薬剤散布は周辺作物への飛散に十分注意する。

3) 使用の際は同一系統 (IRAC コード) の薬剤の連用は避ける。

表1 ダイズとキャベツ、ハクサイのハスモンヨトウの防除に使用できる主な薬剤

薬剤名	希釈倍率等	収穫前日数 /使用回数	系統 ※ (IRACコード)
<b>ダイズ</b>			
ラービフロアブル	750～1000倍	14日 / 2回	1A
エルサン乳剤	1000倍	7日 / 2回	1B
ダーズバン乳剤 40	1500倍	7日 / 2回	1B
トレボン乳剤	1000倍	14日 / 2回	3A
パーマチオン水和剤	1000～2000倍	21日 / 3回	3A, 1B
アニキ乳剤	2000～3000倍	前日 / 3回	6
カスケード乳剤	4000倍	7日 / 2回	15
マッチ乳剤	3000倍	7日 / 2回	15
ロムダンフロアブル	2000倍	14日 / 3回	18
マトリックフロアブル	2000～3000倍	前日 / 3回	18
トルネードエースDF	2000倍	7日 / 2回	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日 / 3回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	7日 / 3回	28
プレバソンフロアブル 5	4000倍	7日 / 2回	28
ベネビアOD	2000～4000倍	7日 / 3回	28
プレオフロアブル	1000～2000倍	7日 / 2回	UN
<b>キャベツ</b>			
ラービフロアブル	750～1000倍	7日 / 4回	1A
エルサン乳剤	1000倍	14日 / 2回	1B
ディアナSC	2500～5000倍	前日 / 2回	5
アフーム乳剤	1000～2000倍	前日 / 3回	6
アニキ乳剤	1000～2000倍	3日 / 3回	6
ガンバ水和剤	1500倍	21日 / 2回	12A
コテツフロアブル	2000倍	前日 / 2回	13
カスケード乳剤	4000倍	7日 / 2回	15
マッチ乳剤	3000倍	7日 / 2回	15
ロムダンフロアブル	2000～4000倍	前日 / 2回	18
マトリックフロアブル	2000倍	7日 / 4回	18
トルネードエースDF	2000倍	7日 / 2回	22A
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日 / 3回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	前日 / 3回	28
プレバソンフロアブル 5	2000倍	前日 / 3回	28
ベネビアOD	2000～4000倍	前日 / 3回	28
プレオフロアブル	1000倍	7日 / 2回	UN
<b>ハクサイ</b>			
ラービフロアブル	750～1000倍	7日 / 2回	1A
エルサン乳剤	1000倍	21日 / 3回	1B
ディアナSC	2500～5000倍	前日 / 2回	5
アニキ乳剤	1000～2000倍	3日 / 3回	6
コテツフロアブル	2000倍	前日 / 2回	13
ロムダンフロアブル	2000～4000倍	前日 / 2回	18
アクセルフロアブル	1000～2000倍	前日 / 3回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000～4000倍	前日 / 3回	28
プレバソンフロアブル 5	2000倍	前日 / 3回	28
ベネビアOD	2000～4000倍	前日 / 3回	28

※表2注を参照

表2 ダイコンとブロッコリー、ソバのハスモンヨトウの防除に使用できる主な薬剤

薬剤名	希釈倍率等	収穫前日数 /使用回数	系統 <sup>(注)</sup> (IRACコード)
ダイコン			
ラービフロアブル	1000倍	7日/2回	1A
エルサン乳剤	1000倍	30日/2回	1B
アタブロン乳剤	2000倍	14日/3回	15
ブロッコリー			
エルサン乳剤	1000倍	30日/2回	1B
ディアナSC	2500~5000倍	前日/2回	5
アニキ乳剤	1000~2000倍	3日/3回	6
コテツフロアブル	2000倍	前日/2回	13
カスケード乳剤	4000倍	7日/2回	15
マッチ乳剤	3000倍	7日/2回	15
ファルコンフロアブル	4000倍	3日/2回	18
アクセルフロアブル	1000~2000倍	前日/2回	22B
フェニックス顆粒水和剤	2000~4000倍	前日/2回	28
プレバソフロアブル5	2000倍	前日/3回	28
ベネビアOD	2000~4000倍	前日/3回	28
プレオフロアブル	1000倍	7日/2回	UN
ソバ			
ロムダン粉剤DL	4kg/10a		18
ロムダンフロアブル	2000倍	21日/2回	18
フェニックス顆粒水和剤	2000~6000倍	7日/2回	28

注：IRACコードとは殺虫剤を作用機構別に分類してつけられたもので、同じIRACコードの薬剤を連用すると殺虫剤抵抗性の発生リスクが高まるので、薬剤選択の際は注意する。なお、IRACコードについては農薬工業会ホームページで最新の情報が確認できる。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

## 5. 付 表

表3 フェロモントラップによるハスモンヨトウの雄成虫の半旬別誘殺数(頭)

調査地点		調査時期							
		7月		8月				9月	
		6半旬	1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	1半旬
出雲市	本年	7	40	31	25	52	27	<b>281</b>	<b>304</b>
	平年	27.1	19.3	29.8	45.6	45.4	48.7	54.2	70.5
益田市	本年	10	50	85	70	57	60	<b>625</b>	-
	平年	34.4	18.1	35.3	62.4	72.8	111.4	127.1	115.1